

大人にも大人気の国民的アニメ『名探偵コナン』は今年で放送30周年。人気の秘訣は、本格的な推理と魅力的な登場人物、そして時代に合わせたトリックの進化でしょう。30年の歴史の中でケータイやインターネットなどの社会変化も取り込んでミステリーを深めてきたコナン。彼の持続力と洞察力を学びたいものですね。

“2026年問題”



松の内の賑わいも過ぎて、ようやく平生の暮らしが戻ってまいりました。お仕事にも新たな気持ちでご精励されていることと存じます。

今年は日によって気温差が激しく、体調を崩しやすいようです。これからが寒さも本番で、降雪や道路の凍結なども予想されますので、十分にお気を付けください。

さて、我らがカープ。

「2026年問題」なる言葉が俎上に載り、シーズン前だというのに早くもチーム編成を左右する事案が持ち上がっている。主力選手のFA権取得が現実味を帯び、2026年に複数の中心選手が同時にFAとなる可能性がある。



とりわけ熱を帯びているのがエース格の森下だ。2025年の出場選手登録日数が143日と、FA年数としてカウントされる145日にわずかに届かなかった。しかし、前年に規定日数を満たしていた選手が故障で登録を外された場合に適用される「故障者特例」により、最大60日が加算されることになった。この制度が適用されれば、森下の2025年は1年分として扱われ、当初の想定より1年早く、2026年中に国内FA権を取得する見通しとなる。

昨季の森下は、22試合に先発登板し、防御率2.48を記録した。6勝14敗と負けが先行したが、打線の援護に恵まれなかった影響は大きい。投球内容は先発陣の中でも安定しており、その評価を反映する形で年俸は2000万円増の推定2億円まで上がった。その投手がすでにFAを意識せざるを得ない状況に置かれていることに、ファンは不安を募らせている。

森下の将来をめぐるのは、巨人やソフトバンクといった資金力のある球団が獲得に動く可能性を指摘する声がある。そうなれば、条件面で広島が不利になるのは避けられず、国内移籍よりもポスティングによるメジャーリーグ挑戦を望む意見は少なくない。

不安が募るのは森下だけではない。床田、坂倉、島内も今季の登録日数次第でFA取得条件を満たす可能性があり、主力4人がほぼ同じ時期にFAを迎える形になる。もしこの4人が同時に抜けたら、チームは成り立つのか。

主力のFA権取得が近づく中、球団は本気で引き留めにかかるのが問題となる。2024年オフには九里がオリックスへ移籍し、昨季はチームトップの11勝を挙げた。あのまま広島に残っていたらどうなったのか。今回の4人の去就は来季の戦力のみならず、球団の中長期的な方向性に大きくかわってくる。2026年の戦いを見据え、年俸や契約年数を通じて主力をどう評価するのか。その姿勢を明確に示す必要がある。

（記：上岡）

頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたをそしてカープを全力応援致します！

裏面もご覧ください。